

「五所川原市都市計画マスタープラン全体構想（案）」についての意見募集結果について

「五所川原市都市計画マスタープラン（案）」についての意見募集に対し、ご意見をいただき、誠にありがとうございました。

いただいた意見の概要とそれに対する市の考え方は下記のとおりです。

記

1 意見募集期間

平成24年2月1日から平成24年3月1日まで

2 募集方法

市のホームページ (<http://www.city.goshogawara.lg.jp/>) に案の概要等を掲載したほか、建設部都市計画課、本庁舎及び両総合支所の行政資料スペースに備え付けました。

意見提出は、郵送、電子メール、FAXのいずれかの方法によることとし、提出言語は日本語としました。

意見提出にあたっては、提出者の住所・氏名（法人等の場合は、その名称・事務所所在地等の連絡先・代表者）の明記を条件としました。

3 提出された意見

2人の方から延べ5件の意見をいただきました。その反映状況は次のとおりです。

文章修正等	記述済み	実施段階検討	反映困難	その他	合計
2件		1件	1件	1件	5件

「文章修正等」・・・本文の修正、記述の追加等意見を反映させるもの。

「記述済み」・・・既に記述済みのもの。

「実施段階検討」・・・計画の実施段階で検討又は対応すべきもの。

「反映困難」・・・反映が困難なもの。

「その他」・・・質問や感想。施策の体系外への意見。

意見の内容とそれに対する市の考え方及び意見を考慮した結果決定した案は、次のとおりです。

No	提出された意見	市の考え方
1	「活力と魅力あるまちづくり」を観光振興の点から考えますと、キーワードにある圏域中心都市の確立と、隣接都市との連携・交流が大切だと考えます。といたしますのは、新幹線函館延伸と、仮称「奥津軽駅」開業は当市にとって、新青森駅開業に勝るとも劣らないチャンスと思っています。本市内外を有機的に繋ぐ都市軸形成のためにも、ここで「都市づくりの基本理念」として強調すべきではないでしょうか。そこで、「人々が行き交い集う」について「人々が <u>広く</u> 行き交い集う」と、加筆すべきと考えます。	観光客や隣接都市からの交流人口の確保において、仮称）奥津軽駅の開業インパクトは重要と考えています。これに加え、既存産業の活性化などにより定住促進を図り、多くの人々が市街地がにぎわい、発展するまちを基本理念としていることから、 ◇活力と魅力ある明るいまち 「多彩な産業の連携による新たな産業形態の構築と、市街地のにぎわい創出により、人々が行き交い集う明るく発展するまち」を「多彩な産業の連携による新たな産業形態の構築と、市街地のにぎわい創出により、 多くの 人々が行き交い集う明るく発展するまち」と修正します。
2	「安全で便利な住みよいまちづくり」を「障害のある人もない人も」との視点から考えますと、キーワードの安全安心なまちづくりと、少子高齢化への対応が大切だと考えます。 自家用車に頼らずに歩いて、又は公共交通機関を使って日常生活が送れるということを、ここで「都市づくりの基本理念」として強調すべきではないでしょうか。そのためには中心市街地の再生が大切です。そこで、「高齢者や子供にもやさしい」の後に、「 障害のある人もない人も 」と、加筆すべきと考えます。	高齢者や子供、障がいのある方のみならず、全ての人が安全安心に暮らせるまちを基本理念とすることから、 ◇安全で便利な住みよいまち 「都市的サービスが充実し、快適な生活空間が確保された、高齢者や子供にもやさしい、安全安心に暮らせるまち」を「都市的サービスが充実し、快適な生活空間が確保された、高齢者や子供にもやさしい、 みんなが安全安心に暮らせるまち 」と修正します。

3	<p>「市民がみんなで作るまちづくり」を実効あるものとしていかなばなりません。</p> <p>キーワードにある市民・企業など・行政の協働と、市民参画のまちづくりに加えて、「行政の徹底した情報公開と政策形成過程からの市民参画の拡大」という視点が大切だと考えます。ここで、「都市づくりの基本理念」として強調すべきではないでしょうか。そのためには、具体的な手立てが必要です。そこで、「計画から実施まで、」の後に、「<u>徹底した情報公開の下</u>で」と、加筆すべきと考えます。</p>	<p>「徹底した情報公開」はとても重要なことと考えますが、「市民がみんなで作るまち」については、「協働の仕組みづくり」や「まちづくり参加意識の醸成」などの重要な視点がありますので、理念として位置づけるのではなく、今後策定予定の「まちづくりの実現に向けて」の中で検討し、反映して参ります。</p>
4	<p>本市の今後のまちづくり基本方針（個人的見解）は、言い古された事だが次の通りと考えます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 市の玄関・顔・交流、情報発信の整備 2) 西北地域の賑わい集客、広域機能の集積 3) 観光・交流人口の増強対応 4) まちづくりのための市民参画の具体化 <p>五所川原市の様な人口減少小都市、都市化力の弱い都市では、誘導核として賑わい集客、都市(的)機能の集中と選択が不可欠であり、面開発地に道路を先行整備しても市街地形成は進まない。</p> <p>そのためにも行政の明確な意思、リーダーシップと市民参画により市民の公共・公益的優先の意識改革が無ければ住みよいまちづくりはできない。</p> <p>上記基本方針から「駅前整備」をまちづくりのモデル的重点事業にと考えます。しかし何処の都市にもある車流整理のための駅前広場でなく、歩行者優先賑わい人間広場的なイメージ。勿論十分な市民等との開かれた議論が必要です。</p>	<p>駅前整備は市街地に賑わいを創出する事業のうちの一つであると考えられます。</p> <p>今後、事業実施にあたっては、計画段階から市民の参画を図り、進めて参ります。</p>
5	<p>全体の感想</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 今回のマスタープランは策定根拠法が都市計画法で、旧金木町・旧市浦村含む行政区域変更と市総合計画等、既存広域計画との整合に伴う修正と理解します。 ② 都市計画マスタープランとは、総合計画等の上位計画の目指す姿を都市計画上の土地利用に投影したものと考えますが、市民としてマスタープランの意義、活用の具体的なイメージが掴めない。 ③ 当市を取り巻く地域の社会、経済そして行財政環境は一団と厳しさを増しています。都市計画法行政（まちづくり）も道路中心のハード整備中心から地域・まちづくりのソフト重視へ移行する事が必要ではないでしょうか。都市計画課を都市政策課に名称変更、衣替えも必要では。 <p>構想（案）の感想として</p> <p>当マスタープランの取り扱う範囲がわからないが以下感じたことです。（末文？付き）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 道路に偏重 ② 少子高齢化を過ぎて人口減少期に突入の認識 ③ 情報通信の伸展 ④ 今までの当市都市計画、事業の検証 ⑤ 国・地方（行政）の莫大な債務等のため今後の公共投資縮減 ⑥ まちづくりに不可欠なコミュニティ施策 ⑦ 公共交通のあり方 <p>その他感じたこと</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 道路整備について、都市計画道路とその他の一般道路（国、県、市町村道）事業の分担、関係がわからない。 ② 具体的な部門別計画（案）が議論されてマスタープランの意義、イメージが掴めると思われる。 ③ 上位計画の市総合計画のまちづくり将来像「活力 	<p>寄せられた感想を参考に、今後の本計画策定を進めて参ります。</p>

ある、明るく住みよい豊かなまち」は焦点、重点
ところがわかり難い。
④用地取得の可否で都市計画が後追いする感が否
めない。

担当 五所川原市建設部都市計画課

電子メール tosikei@city.goshogawara.lg.jp

電話 0173-35-2111

FAX 0173-35-3617